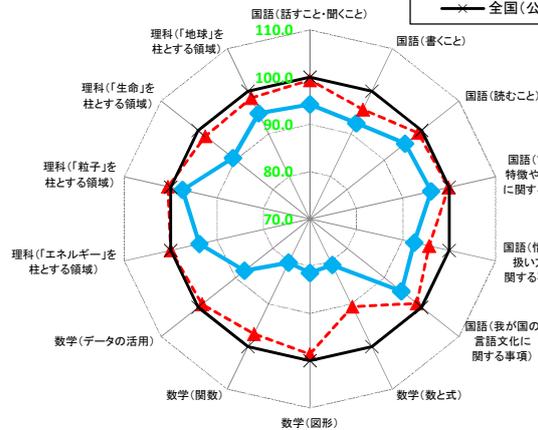
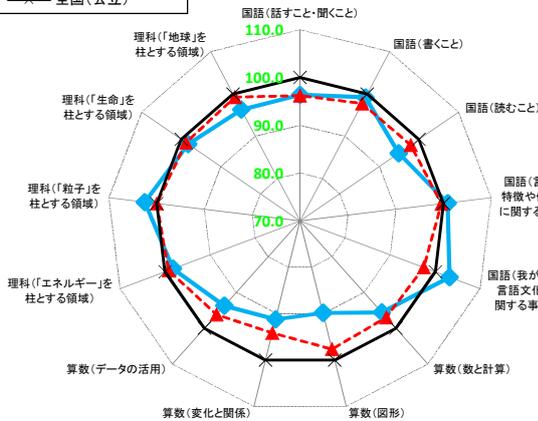


■宗谷管内の状況及び学力向上策（小学校数:34校、児童数:372人）（中学校数:20校、生徒数:400人）

小学校【教科全体の状況】

平均正答率	小学校国語	小学校算数	小学校理科	中学校国語	中学校数学	中学校理科
宗谷管内	65[64.7]	59[58.9]	63[63.0]	66[65.8]	42[42.4]	46[46.4]
全国	66[65.6]	63[63.2]	63[63.3]	69[69.0]	51[51.4]	49[49.3]

中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの（管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

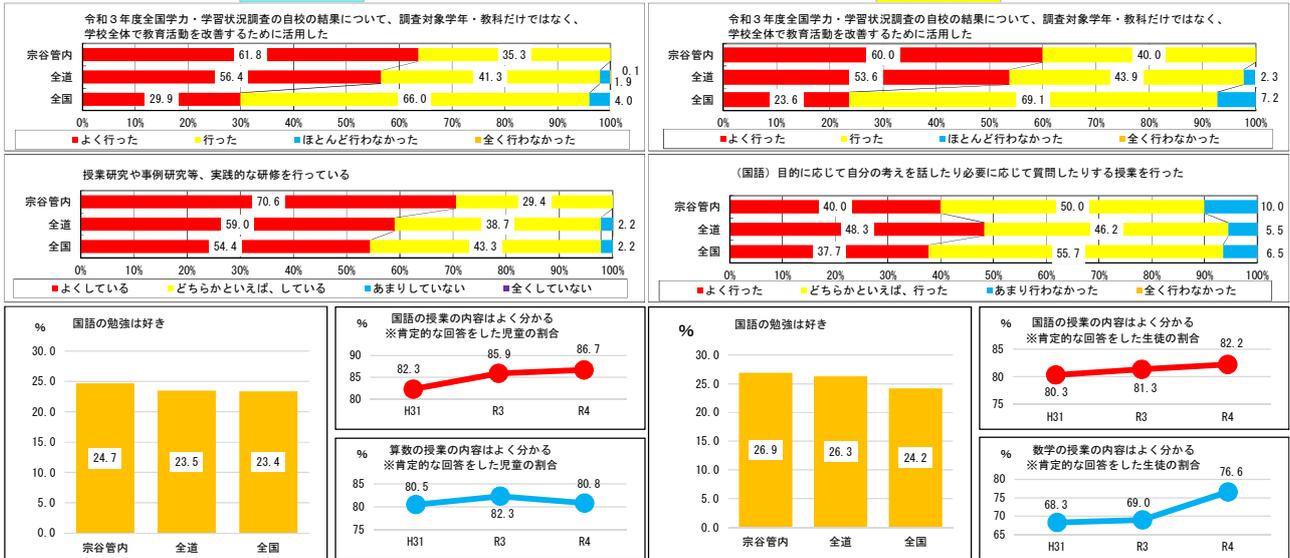
【平均正答率の推移】「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化



【質問紙の状況】

小学校

中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

管内の多くの小学校において、令和3年度の自校の調査結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用し、指導計画の改善を図ったことにより、国語、算数、理科の平均正答率が前回の調査から向上するとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」、理科の「粒子」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

管内の多くの小学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研修を行い、授業改善を図ったことにより、国語の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した児童の割合が、前回調査より向上するとともに、国語の勉強は好き」と回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

管内の多くの中学校において、令和3年度の自校の調査結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用し、指導計画の改善を図ったことにより、理科の平均正答率が前回の調査から向上するとともに、国語の授業の内容はよく分かる、数学の授業の内容はよく分かる」と肯定的に回答した生徒の割合が、前回調査より向上したと考えられる。

管内の多くの中学校において、国語の授業で目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、国語の勉強は好き」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国の平均正答率に最も近付いたと考えられる。

【宗谷管内の学力向上策】については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

宗谷管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

(1) 検証改善サイクルの確立

- 学力評価において、数値目標に基づく検証改善サイクルの評価・改善に課題が見られる学校があることから、管理職のリーダーシップにより、短期的・継続的な検証改善サイクルを確立する必要がある。
- 学力保障会議及び組織力強化会議等、各種会議を連動させ、年間を通して管理職のリーダーシップによる授業改革を行うよう、学校教育指導訪問において指導助言を行う。
- 「検証改善サイクルシート」を活用し、年間を通して各学校の授業改革の状況を把握するとともに、優れた取組について管内に情報発信を行う。

(2) 授業改革の推進

- 授業の内容はよく分かると回答した児童生徒の割合が5割以下であることから、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改革を行う必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改革の視点を踏まえた「授業改革に向けた5つのポイント」の徹底を図るとともに、学校教育指導訪問や各種研修会等において、児童生徒が必要な資質・能力を身に付けることができる授業づくりについて指導助言を行う。
- 「ほっかいどうチャレンジテスト」及び局作成の「Sサポート問題」等の結果を集計・分析し、授業改革に向けた具体的な方策を提供するとともに、学校教育指導訪問において指導助言を行う。

(3) 学習習慣、生活習慣の確立

- 学習習慣が十分に定着していない児童生徒が4割以上おり、学校の学力向上の取組や成果、改善策等が保護者に十分伝わっていないことから、地域と連携した学びの環境づくりを推進する必要がある。
- 学力保障会議等を通じて、保護者や地域住民の関係者と育成を目指す姿の共有を行うとともに、学校への支援体制を整備する。
- コミュニティ・スクール等を活用した学力保障に係る取組の好事例について学校教育指導訪問等において提示する。

2. 具体的な取組

月	(1) 検証改善サイクルの確立	(2) 授業改革の推進	(3) 学習習慣、生活習慣の確立
	「管内学力保障プラン」「授業改革に向けた5つのポイント」による学校、市町村教育委員会、教育局が一体となった児童生徒の資質・能力の育成に向けた取組の推進 ○ 「検証改善サイクルシート」を活用した組織的・継続的な授業改革の推進 ○ 学力向上「Sサポート」の取組の推進 ※「チャレンジテスト」の実施→結果分析・改善方策の提示→授業改革等の取組（指導助言）→「Sサポート問題」等による確認 ○ 学力保障に向けて訪問が必要と判断した学校への複数回の訪問及び要請訪問（Eサポート）、指定事業指定校等訪問		
10	・ 第2回管内校長研修会 「リフレクションシート」に基づいた各校の検証改善サイクルの実施状況の把握	・ 宗谷教育研修センター研修講座との連携研修	・ ICT機器の活用等を含む家庭学習の効果的な取組に関する実践事例の普及
11	・ ヒアリング等を踏まえた取組の状況の把握及び指導助言（管内校長会議）	・ 局独自オンライン研修会（国語、算数・数学、外国語の授業づくりのポイント、特別支援教育に係る内容）	・ 社会教育主事による、保護者・地域住民を対象とした生活習慣に関する研修機会の設定
12	・ ヒアリング等を踏まえた取組の状況の把握及び指導助言（管内教頭会議） ・ 第3回組織力強化会議（対象：全ての学校の学力向上担当者）	・ 局独自オンライン研修会（国語、算数・数学、外国語の授業づくりのポイント、特別支援教育に係る内容）	
1	・ 各市町村の学力向上に向けた取組の成果や課題の把握及び指導助言（委員会訪問） ・ 「宗谷学力保障プラン」の最終評価（対象：学校・保護者・児童生徒）		・ 二次訪問（2回目）等による家庭学習の効果的な取組に関する実践事例の普及
2	・ 第3回宗谷管内学力保障会議（取組の評価）	・ 「検証改善サイクルシート」に基づく授業改革の成果交流	
3	・ 第3回組織力強化会議で明確になった取組に係る実施状況の確認及び指導助言（二次訪問（2回目）※重点校） ・ 次年度の学力向上施策の説明（校長会議等）	・ 教育局の学力保障に向けた取組の検証及び次年度の取組の方向性の検討	

3. 取組の評価

(1) 検証改善サイクルの確立

- 宗谷管内子どもの学力向上「Sサポート」の平均正答率
 - ・ 現 状 小…国語79%、算数65%
中…国語73%、数学43%
 - ・ 目 標 小…75%、中…75%
- [9月中旬評価]
小5と中2の平均正答率
 - ・ 達成値 小…国語95%、算数56%
中…国語82%、数学36%
- ※1月に総括評価を実施

(2) 授業改革の推進

- [9月中旬評価]
- 国語の授業は分かりやすいと回答した小5と中2の割合
 - ・ 現 状 小…42%、中…57%
 - ・ 目 標 小…100%、中…100%
- 算数・数学の授業は分かりやすいと回答した小5と中2の割合
 - ・ 現 状 小…40%、中49%
 - ・ 目 標 小…100%、中…100%
- ※1月に総括評価を実施

(3) 学習習慣、生活習慣の確立

- [9月中旬評価]
- 学校の学力保障の取組や成果、改善策はよく分かると回答した保護者の割合
 - ・ 現 状 小…44%、中…22%
 - ・ 目 標 小…100%、中…100%
- ※1月に総括評価を実施

4. 改善点

(1) 検証改善サイクルの確立

- 学校教育指導訪問等で組織力強化会議で作成した「リフレクションシート」に基づく、各学校の検証改善サイクルの実施状況を把握するとともに、教育課程改善に向けたポイントについて指導助言を行う。
- チャレンジテスト、Sサポート等の結果分析に基づいた改善ポイントについて、Sサポート通信等で各学校に周知する。

(2) 授業改革の推進

- 学校教育指導訪問等で「検証改善サイクルシート」に基づく授業改革の進捗状況を把握するとともに、道教委作成の教育課程編成の手引等を活用し、各校の課題に焦点化した授業改革のポイントについて指導助言を行う。
- オンライン研修等を開催し、授業づくり及び特別支援教育のポイントについての理解を深め授業改革の推進を図る。

(3) 学習習慣、生活習慣の確立

- 社会教育指導班と連携した保護者・地域住民を対象とした学びの機会を設定する。
- 家庭学習の効果的な取組事例について収集し、各学校に周知する。